

## 橋の点検にドローンなど活用実験

11月22日 15時00分



老朽化が進む橋の点検作業のコストを削減しようと、ドローンやロボットカメラを活用して効率化を目指す実験が津市で行われました。

津市では、管理する橋の半数が15年後には建設から50年以上が経過する見込みで、点検作業が

急がれていますが、点検コストの増加が懸念されています。

そこで、ドローンやロボットカメラを組み合わせ効率的に点検を行う新しい技術を導入することになり、22日、津市の信楽川にかかる橋で実験が行われました。

実験では、幅3.3メートル高さ3メートルの橋の周りをドローンを飛ばし、搭載されたカメラで人が入り込めない裏側などを撮影しました。

また、高さ3メートルまで伸びる三脚に取り付けられたロボットカメラを職員がタブレットで遠隔操作し、カメラの角度やレンズの倍率を変えて、橋脚に損傷がないか、確認していました。

市によりますと、ドローンとロボットカメラを組み合わせる橋の点検を行うのは関西では初めてだということで、大型の機械や足場が必要な点検の作業時間の短縮やコスト削減が期待されています。

津市未来まちづくり部の松野芳樹技監は「大切なインフラである橋を市民が安全に利用できるよう、新技術で精度の高い点検を行っていききたい」と話していました。